

2024年1月14日
年間第二主日
菊地功大司教 メッセージ

主の神殿で寝ていた少年サムエルに、主は直接声をかけ呼び出されます。

サムエル記は、少年サムエルがたびたび神からの呼びかけを受けた話を記し、それに対して祭司エリが、「どうぞお話してください。しもべは聞いております」と応えるようにと指示をした話を記します。謙遜に耳を傾けたときにはじめて、神の声がサムエルの心の耳に到達しました。

教会がいまともに歩んでいるシノドスの道も、同じことを求めています。霊的な会話という分かち合いの中で、互いに語る言葉に耳を傾け、議論することなくその言葉を心に留め、さらに耳を傾けて祈るときに、初めて聖霊の導きを見いだす準備ができる。決して、おまえはどうしてそんなことを語るのだと議論することではなく、耳を傾けるところからすべては始まります。

インターネットが普及した現在、わたしたちはその中で、耳を傾けることよりも、議論し、論破することに快感を感じてしまっているのではないのでしょうか。そこに神の声は響いているのでしょうか。

「来なさい。そうすれば分かる」とイエスに呼びかけられたヨハネの二人の弟子も、納得できる証拠を求め徹底的にイエスと議論したからではなく、イエスの存在とその語る言葉を心に響かせたからこそ、イエスがメシアであることを確信しました。だからこそ福音は、「どこにイエスが泊まっておられるかを見た」と記し、徹底的に議論したとは記しません。サムエルの「どうぞお話してください。しもべは聞いております」と言う態度に通じる謙遜さです。

今年の世界平和の日に当たり、教皇様は視点を大きく変え、「AIと平和」というメッセ

ージを発表されました。それは尊厳ある人間と、その人間が生み出した技術を対比させるなかで、人間とは一体何者であるのかを改めて見つめ直そうという呼びかけです。

教皇様は、「死ぬことを免れえない人間が、あらゆる限界をテクノロジーによって突破しようと考えれば、すべてを支配しようという考えに取りつかれ、自己を制御できなくなる危険があります。・・・被造物として、人間には限界があると認識しそれを受け入れることは、充満に至るため、さらにいえば贈り物として充足を受け取るために、欠いてはならない条件です」と記して、自らが生み出した技術に過信し、逆にそれに支配されることのないようにと警告されています。

「どうぞお話してください。しもべは聞いております」という、謙遜な態度で、他者の声に、そして神の声に耳を傾けて参りましょう。